



県大会

逆転劇で昌平V

初の花園切符奪う

花園への切符をかけた第97回高校ラグビーフットボール大会県大会(関東ラグビーフットボール協会、県教委など主催、毎日新聞社など後援)の決勝が18日、熊谷市の県営熊谷ラグビー場であった。昌平が終了間際の逆転劇で、21-17で4連覇を狙う深谷を破り、初優勝を果たした。昌平は12月27日に東大阪市花園ラグビー場で開幕する全国高校ラグビーフットボール大会に出場する。【三股智子、中山信

▽決勝

深谷	反12
11007	200010
TGPD前	TGPD後
11007	220014
昌平	反3
	21計17

【昌平・深谷】試合終了間際に母校応援団の前で逆転トライを決め、抱き合っている昌平の選手たち。県営熊谷ラグビー場で、橋本政明撮影



決勝戦は互いに譲らぬ接戦となった。深谷の3点リードで迎えた後半34分、敵陣でフェースを重ねた昌平が左に展開、十分に深谷バ

ツクスを引きつけたC T B鈴木龍選手(2年)から、フィニッシャーのF Bジョンストン・ケン選手(3年)にボールが渡った。ジョンストン選手は

ピッチを縦に切り裂いて深谷を振り切り、中央に大きく回り込んで逆転のトライ。ゴール下で抱き合っただけでなく、爆発させる昌平フイフティーンに、まもなく

ノーサイドを告げる笛が鳴った。あと一歩で4連覇を逃した深谷の選手たちはピッチに崩れ落ちた。

両チームの対戦は今年、県新人戦と関東大会と選に続き3回目。いずれも深谷が勝利したが、点差は縮まっていった。昌平の御代田誠監督は「フォワードは体格が劣るが、スピードのあるバックスが強み。自信があった」と語る。

この負け生かせ ○…4年前の県予選決勝で浦和に敗れた後、3連覇していた深谷があと一歩で花園への切符を逃した。特に前回の全国大会では準優勝した東海大仰星

▽H B 小林、森田、田野、澤下、木場、瀬田、山武、上高、坂吉、吉岡、横井、深谷FW TB FB 辺谷、田中、藤原、井木、部、渡辺、橋本、加藤、浅路、岡、大屋、大藤、野野、山、大屋、大藤、野野、山、大屋、大藤、野野、山

得点機を逃した 深谷・横田典之監督 得点を取れる時にミスや反則でチャンスが逃してしまっただけが原因。選手はよくやったが、取り切るところまで私が教えられなかった。昌平は勝負強さ、ここという時に得点を

でリードするが、深谷も俊足のW T G間瀬陽紀(2年)、金川凌真(同)の両選手が続けてトライを奪い、一時逆転。最終盤は、深谷が要のC T B横田大輝主将(3年)をシンビで欠く中、集中力を切らさず攻め続けた昌平が活路をひらいた。

昌平の岡田大生主将(同)は「自分を信じて、チームを信じて、落ちていく攻めようと思っかけて続けた。全員ディフェンスなど昌平らしさで、花園でも勝ち上がりた」と話した。

「自分のところに来たら絶対に走りきりたい」。後半34分、左に展開して相手選手を引きつけたC T B鈴木龍選手(2年)からボールを受け取ると、左サイドを駆け抜けて会心の逆転トライを決めた。トライ後、歓声を上げて駆け寄る仲間を押しつぶされながら、笑顔がはじけた。「花園では自分のスピードとトライを取り切る力が全国に通用するか試したい」と力強く語った。

昌平・FB(3年) ジョンストン・ケン選手

中学3年だった3年前の県大会決勝も同カードだった。深谷に敗れたものの「絶対に花園に行く」と戦うチームを見て昌平に進学。目指し続けた花園への切符を、自らの逆転トライでもぎ取った。俊足が武器でチームの得点源だ。前半はマークされてあまり動けなかったが、逆に気合が入り、

終盤、会心のトライ

逆転などの危ない場面は相手陣地を攻め続け、ボールを外に回して取り切り替えた。春から強化してきたディフェンスも機能を買った。後半には選手交代でバックスのポジションを再編し、より外を狙う態勢



に。「自分のところに来たら絶対に走りきりたい」。後半34分、左に展開して相手選手を引きつけたC T B鈴木龍選手(2年)からボールを受け取ると、左サイドを駆け抜けて会心の逆転トライを決めた。トライ後、歓声を上げて駆け寄る仲間を押しつぶされながら、笑顔がはじけた。